

出光

この出張授業は「セーフティドライブ」をテーマに事故のない車社会を目指し、充実したカーライフを送るよう取り組んでいる出光興産の活動の一環です。

レーシングドライバー
太田哲也さんが

チャレンジする
ことの素晴らしさを語る

失敗をおそれず、挑戦し続ければ、夢はかなう

15年前、レース中の大事故で全身にヤケドを負った太田さん。「全治3年」という闘病生活を経て、人生というレースに復帰しました。入院中の絶望やリハビリの苦しさを乗り越えた体験から、生きる大切さを語りかける出張授業「夢を実現するためにチャレンジ」を開催。今年も多くの応募校のなかから2つの小学校で行われました。



落ち込んでいるより
チャレンジしよう

僕は、事故後のリハビリを絶望のなかで送っていました。自分ほど不幸な人間はいないと思い、死ぬことまで考えました。それが、事故映像を初めて見たとき、あまりの重大事故で死ななかったことに驚き、「生かされている」と感じました。そのまま何もせず、他人をうらやんで生きるより、自分が再びチャレンジしなければと思いました。



新しい夢に向かって生きる
右手が使えないので左手で字を書き、お箸を持つ練習をしました。次に散歩に出て、車の運転にも挑戦しました。日常生活は送れるようになったけど、元通りの体には戻りませんでした。プロのレーサーとしての復帰は無理だと悟ったのです。でもこの体験がよかった。これからは違う夢を見つけて、違う仕事を目標そうと思えます。



宮城県大崎市立高倉小学校 全児童55名



低学年も含めた全児童が熱心に聞き入りました。会場に集まった55名の児童たちは目を輝かせて講演に聞き入っていました。終了後、お礼として素晴らしい合唱を聞かせてくれました。

埼玉県三郷市立前間小学校 4・5・6年生 児童87名



夢を持つと、の呼びかけに大きな反響がありました。講演を聞いた児童たちは、太田さんのメッセージが強く心に残ったようでした。校庭での記念撮影後、サインを求める列が続きました。



太田哲也(おおたてつや)
1959年11月6日生まれ。自動車評論家・レーシングドライバー。4年連続フェラーリでル・マン24時間レースに出場。日本一のフェラーリドライバーの異名をとる。1998年全日本GT選手権で事故に巻き込まれ瀕死の重傷を負い、再起不能といわれながら、23回の手術とリハビリを繰り返し、事故から2年半後にサーキットに復帰した。復活までを自らがつづった著作『クラッシュ』『リバース』は、スポーツドキュメントとしては異例のベストセラーになり映画化もされる。現在は自動車評論家として多数の連載をもつ。2005年6月に出版した『生き方ナビ』は、学生、教育関係者から絶大な支持を集め、小中高で総合学習の教材としても使われている。ライフワークとして若い世代に「チャレンジする素晴らしさ」を伝える社会貢献活動「KEEP ON RACING」(ホームページhttp://www.keep-on-racing.com)も主宰。



積極的に生きて運を開こう

ひとつ、夢をかなえる方法を教えます。チャンスの女神と仲良くすることです。チャンスの女神とは、色々な経験や出会いのことです。なにごとにも「面倒くさ」「ムリ」と片付けている人に、チャンスの女神は訪れません。運の良い人になることが成功の秘訣です。失敗や恥をかくことをおそれず、積極的に生きて、出会いや体験を増やすことで運が開き、夢は実現します。

出光セーフティドライブ
事故のないクルマ社会を目指して

太田さんは講演の最後に交通安全の呼びかけもしています。車は素晴らしい乗り物ですが、事故というリスクもあります。最近では歩行者の不注意などによる事故が多いというデータもあります。横断歩道で信号が青でも、くれぐれも注意し、自分の目でしっかり安全を確認してから渡るようにしてほしいと呼びかけました。

主催/朝日小学生新聞 朝日中学生ウィークリー 共催/出光興産株式会社

人もクルマも、安全第一。事故のないクルマ社会を目指しましょう。 ほっと安心、もっと活力、きっと満足。出光の約束 出光興産公式ホームページ http://www.idemitsu.co.jp/